

特別支援教育に関する研修体系表(試案)に係る参考資料

福島県特別支援教育センターR6・3・11

ステップ	知るステップ (特別支援教育の理解)	気付くステップ (子ども理解)	支えるステップ (授業・学級づくり)		つなぐステップ (体制づくり)
	(0)	(1)	(2)	(3)	(4)
ステージ	特別支援教育施策等の動向や、特別な教育的支援を必要とする児童生徒の指導・支援の在り方について概ね理解している。	児童生徒の実態を把握し、一人一人の教育的ニーズを踏まえた授業づくりを行う等、きめ細かな指導・支援をしている。	個別的教育支援計画及び個別の指導計画を効果的に活用して、指導・支援の工夫・改善をしている。	特別支援教育コーディネーターや保護者及び地域、関係機関と連携し、個々の課題を解決するために、指導・支援の充実を図っている。	管理職の指導・助言の下、保護者や地域、関係機関と連携し、役割を明確にした校内支援体制の構築に主体的に関わっている。
研修項目 (案) ○大項目 ・小項目	○共生社会の実現に向けて ・インクルーシブ教育システム ・学びの場の種類と就学の仕組み ○特別支援教育の動向 ・特別支援教育の定義 ・ICF(社会モデル) ○福島県の特別支援教育 ・第7次福島県総合教育計画 ・学校教育指導の重点 ○合理的配慮とは ・障害者差別解消法 ・基礎的環境整備 ・障害者権利条約 ・自立活動 ○教育的ニーズとは ・三つの観点による整理 ・指導と支援 ○個別的教育支援計画とは ・役割 ・作成に向けて ○個別の指導計画とは ・役割 ・作成に向けて ○障がいについて ・障がい特性 ○教育相談と生徒指導 ・それぞれの役割 ○交流及び共同学習とは ・意義 ・概要	○子どもを理解するために大切なこと ・氷山モデル ・二次障がい ・ケース会議 ○子どもの実態把握をするために大切なこと ・アセスメントの種類・方法 ・発達段階 ○教育的ニーズの整理 ・各障がい特性の理解 ・指導と支援 ○個別的教育支援計画の作成 ・個別の指導計画の作成 ○教育相談の役割と在り方 ・カウンセリングマインド ・信頼関係の構築 ・本人との教育相談 ・保護者との教育相談 ○校内組織理解 ・校内組織 ・ケース会議	○個に応じた指導・支援の充実 ・教育的ニーズに応じた指導・合理的配慮の提供 ○ユニバーサルデザインの視点を生かした授業・学級づくり ・多様性に応じた指導・支援 ・周囲の児童等とその保護者への理解啓発 ○生徒指導の役割と在り方 ・チーム体制の活用 ○個別的教育支援計画の活用 ・保護者との個別的教育支援計画の共有 ○個別の指導計画の活用 ・校内資源・組織の活用・連携 ・SC、SSWとの連携 ・特別支援教育コーディネーターとの連携 ○交流及び共同学習の充実	○関係機関との連携 ・一貫した教育支援 ・外部との連携 ○組織的対応 ・ケース会議 ・組織的対応のポイント	
参考資料	【国】 ・特別支援教育の推進について(H19通知) ・共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(H24通知) ・教育支援体制整備ガイドライン(H29) ・学習指導要領解説総則編 ・特別支援学校学習指導要領解説自立活動編 ・障害のある子供の教育支援の手引(R3) ・生徒指導提要(R4,H22) 【県】 ・第7次福島県総合教育計画 ・学校教育指導の重点 【特別支援教育センター】 ・コーディネートハンドブック、追補版 ・合理的配慮リーフレット ・交流及び共同学習リーフレット	【国】 ・教育支援体制整備ガイドライン(H29) ・学習指導要領解説総則編、各教科等編 ・障害のある子供の教育支援の手引(R3) ・生徒指導提要(R4,H22) ・教職員支援機構資料「特別支援教育総論 学習のユニバーサルデザイン・段階的対応・合理的配慮」 ・国立特別支援教育総合研究所資料「通常の学級における多様な教育的ニーズのある子供の教科指導上の配慮に関する研究」 【県】 ・学校教育指導の重点 ・福島県版ICT活用ハンドブック2022 ・ふくしまの「授業スタンダード」 【特別支援教育センター】 ・コーディネートハンドブック、追補版 ・交流及び共同学習リーフレット ・合理的配慮リーフレット	【国】 ・教育支援体制整備ガイドライン(H29) ・学習指導要領解説総則編、各教科等編 ・障害のある子供の教育支援の手引(R3) ・生徒指導提要(R4,H22) 【県】 ・学校教育指導の重点 【特別支援教育センター】 ・コーディネートハンドブック、追補版 ・やってみようケース会議リーフレット		
	基礎知識	個への対応	集団への対応		組織での対応

○この特別支援教育に関する研修体系表(試案)に関する参考資料は、小・中学校の通常の学級、高等学校における特別支援教育の充実を想定して設定したものです。

○調査結果に基づき、研修を企画・立案する際に「どこから始めるとよいか」「どのような内容を学べばよいか」等の参考となるように研修項目(案)や、根拠となる資料を示しました。